


年 組 名前：



キツネノカミソリの新分布地を確認し、無菌下での培養方法を確立した  
部員  
|| 笛吹高

## 笛吹高植物研究部

# キツネノカミソリ 峡東で確認

## 絶滅危惧種 保全めざす

笛吹高の植物研究部は、笛吹・県森林公園金川の森内  
で、県のレッドデータブックで絶滅危惧2類に指定され  
るキツネノカミソリ（ヒガンバナ科）が自生しているこ  
とを確認した。県内では県西部を中心に5カ所で分布が  
確認されているが、峡東地域より東側での確認は初めて  
とみられる。今後は峡東地域全域に分布状況の調査範囲  
を広げるほか、保全に向けた研究にも取り組み、絶滅危  
惧種からの解除を目指す。

〈土屋真佑子〉

同公園の管理事務所から 現地調査を始めた。8月  
「公園内の植物を調査してほ 上旬、園内で鮮やかなだいた  
しい」との依頼を受け、6月 色の花を付けたキツネノカ  
ミソリを見つけた。発見され たエリアには1996年に植  
栽したエリアから約2\*離れ ている場所もあった。  
1~3年11人の部員らは植 栽株から種子が飛散して野生  
化した可能性があるとして、

園内で分布地点の座標などを 調査。毒があることから鳥な  
どが種子を運んだ可能性が低  
いことや、人目に付かない場  
所であることなどを踏まえ、  
もともとこの地域に自生して  
いる自生株と判断した。

部員らは保全に向け、種を 採取し、殺菌して無菌状態に  
した上で発芽させる方法を確  
立した。このほか、調査の過  
程でヒガンバナ科を食べるガ  
「ハマモトヨトウ」の幼虫  
の発生と被害を県内で初めて  
確認した。

今後は分布調査の範囲を峡 東地域に拡大するほか、花の  
茎などから個体を再生する方  
法の構築などに取り組む予  
定。2年の柳沢碧さんは「学  
校の近くで新たな分布地を見  
つけられてうれしかった。新  
たなフィールドでの調査研究  
を楽しみたい」と話した。

新分布地として、県に次期  
レッドデータブックのデータ  
として報告する予定という。

調査の内容は、5日に県高  
校文化連盟が主催する自然科  
学研究発表大会で発表する。

(2023年11月5日付 山梨日日新聞 18面)

問1 笛吹高の植物研究部は、どこで、何に指定されている「キツネノカミソリ」が自生していることを確認しましたか。

- ・どこで： .....
- ・何に指定： .....

問2 今後、部員は保全に向けた研究に取り組み、何を目標としていますか。

.....

問3 保全に向けた研究では、どのような方法を確立させましたか。

.....

問4 今回の調査結果は、どこに何として報告しますか。

.....